

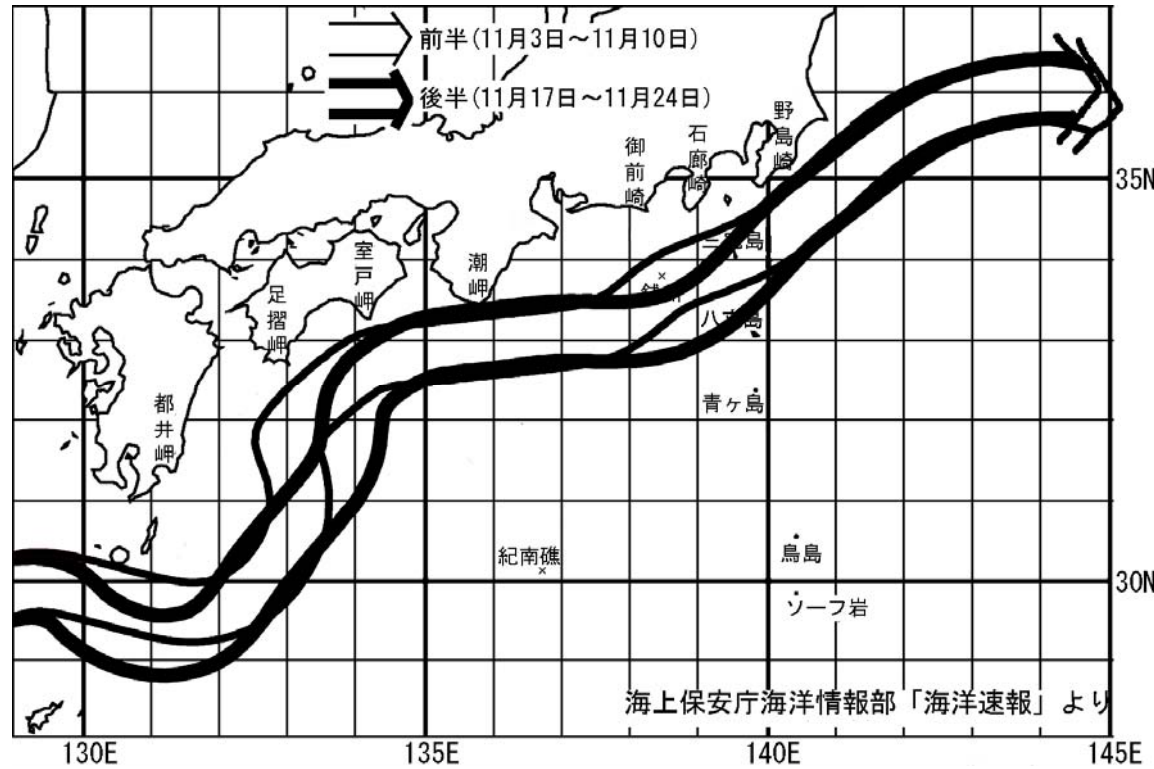
漁海況月報

平成23年11月1日

No. 11 ~11月30日

静岡県水産技術研究所
(電話 054-627-1815)

静岡県水産術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



定地水温の旬平均値 (°C) (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上旬	20.6	22.3	22.0	22.3	22.2	21.9	20.4
	0.6	1.7	1.8	1.3	2.0	2.0	1.3
中旬	20.4	21.6	21.4	21.6	21.4	22.2	19.3
	1.3	1.9	2.2	1.3	1.9	3.3	1.2
下旬	19.7	20.5	19.5	19.0	19.5	20.0	17.3
	1.4	1.5	1.1	-0.1	0.8	2.1	0.2
月	20.2	21.4	20.9	21.0	21.0	21.4	19.0
	1.1	1.6	1.7	0.8	1.5	2.5	0.9

【黒潮流路】

前半の黒潮は、足摺岬～潮岬で接岸した後、遠州灘沖を北東に進み、三宅島付近を通過して房総半島沖へ流去した。後半の黒潮は、足摺岬で離岸し室戸岬～潮岬では接岸した。その後石廊崎沖で前半よりも若干離岸し、八丈島と三宅島の間を通過して房総半島沖へ流去した。黒潮は接岸傾向で推移し、上旬から中旬にかけて沿岸域に暖水波及が見られた。

【県下沿岸域】

県下の定地水温は、暖水波及の影響により17～22°C台のやや高め～きわめて高めで推移した。特に、焼津の水温は高めで推移し、中旬には平年比+3.3°Cのきわめて高めの水温となった。

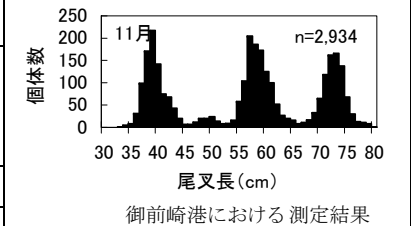
【竿釣近海カツオ】

県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海カツオの水揚量は126トで前年の420%であった。魚価は446円/kgで、前年同期を上回った。

静岡県近海では31°～33°20'N、139°～140°E付近の松生場からひょうたん瀬で極小(尾叉長39cmモード)、中・大(尾叉長57cmモード)、特特大・特大(尾叉長73cmモード)カツオを漁獲した。

竿釣りカツオ水揚量 (近海・沿岸、県内主要5港)

期間	水揚量 (ト)	水揚隻数	水揚/隻 (ト)	平均単価 (円/kg)
23年11月上旬	40	13	3.1	488
中旬	65	24	2.7	386
下旬	21	12	1.8	550
23年11月計	126	49	2.6	446
22年11月計	30	18	1.7	357
21年11月計	58	46	1.3	641



御前崎港における測定結果

【定置網】

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は884トで、前年の同漁場の水揚量(298ト)の3倍となった。また、1か統あたりの水揚量は126.2トで前年(49.7ト)及び平年(昭和57～平成22年の平均38.5ト)のそれぞれ、2.5倍、3.3倍と好漁となった。

魚種別の漁獲量をみるとサバ類、マルソーダ、モロ、ウルメイワシ、マアジの順に多かった。

サバ類は尾叉長で30～35cmのゴマサバを主体に13～16日の4日間で本月の漁獲量の1/2以上の漁獲を占める200トを超える集中的な漁獲があったことが特徴であった。また、マルソーダでは前年及び平年のそれぞれ3倍、7倍となる漁獲が、モロでは前年及び平年のそれぞれ20倍、51倍となる漁獲が、さらにウルメイワシでは前年及び平年のそれぞれ12倍、8倍となる漁獲があり、それらが本月の全体の漁獲量を大きく増加させた要因であった。

漁場別の漁獲量では、古網漁場が240ト(サバ類、ウルメイワシ、マルソーダなど)、川奈漁場が220ト(サバ類、モロ、マルソーダなど)、北川漁場が186ト(サバ類、マルソーダ、モロなど)の順に多かった。

魚種	漁獲量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
サバ類	383.1	3.0	6.1	古網、川奈、北川
マルソーダ	232.5	3.6	7.2	北川、川奈、古網
モロ	128.6	20.7	51.0	川奈、古網、伊豆山
ウルメイワシ	64.8	12.2	8.3	古網、川奈、伊豆山
マアジ	10.8	1.9	0.4	古網、伊豆山、赤沢

[サバたもすくい・棒受網]

小川港には、たもすくい・棒受網によってゴマサバ781トン(前年同月比98%)が水揚げされ、1隻あたり水揚量は26.0トン/隻(前年同月比92%)であった。ゴマサバの平均単価は53円/kgと前月(54円)並で、前年同月(37円)を上回った。

棒受網の漁場は、ほぼ月を通じ三本、三宅に形成されたが、下旬後半にはひょうたんにも出漁した。

ゴマサバの尾叉長モードは29cmついで26cmに見られ、前者は2歳魚(2009年級群)、1歳魚(2010年級群)主体、後者は1歳魚(2010年級群)、0歳魚(2011年級群)主体であった。三本、三宅では18~21cmモードのモロが混獲され、船別混獲率(重量)は最大58%となり、10月の25%に比べて増加した。一方オアカムロの船別混獲率は前月に比べ減少した。

小川港 サバ類(たもすくい・棒受網)水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚 日数	水揚 隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
23年11月上旬	0	208	4	9	0.0	23.1	—	59	三本
中旬	0	138	3	7	0.0	19.7	—	60	三本、三宅
下旬	0	435	4	14	0.0	31.1	—	48	三本、ひょうたん
23年11月計	0	781	11	30	0.0	26.0	—	53	—
22年11月	0	796	11	28	0.0	28.4	—	37	三宅、三本
21年11月	0	595	8	16	0.0	37.2	—	36	三宅、三本

*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

[サクラエビ船曳網]

11月は5日出漁し、水揚量は176トンと前年を上回った。漁場は主に焼津~相良沖に形成された。

漁獲されたサクラエビは、体長33mmにモードを持つ当歳エビと40mmにモードを持つ1歳エビで構成され、当歳エビが主体であった。

サクラエビ水揚量

期 間	水揚量 (トン)	日数	1日1か統当り 平均(kg)	漁 場
平成23年11月上旬	48	1	平均 800	焼津~相良沖
中旬	21	1	平均 350	焼津~相良沖
下旬	107	3	平均 594	焼津~相良沖
平成23年11月計	176	5	平均 587	—
平成22年11月計	78	4	平均 325	焼津~相良沖
平成21年11月計	322	7	平均 767	三保~大井川

[シラス船曳網]

1日1か統当りの水揚量は、駿河湾が209kg、遠州灘が280kgであった。主要6港平均の1日1か統当りの水揚量は256kgと前年同期(197kg)の130%、平年同期(過去5か年平均:153kg)の167%と前年、平年を上回った。また、総水揚量は468.0トンで前年同期(337.3トン)の139%、平年同期(228.3トン)の205%と前年、平年を上回った。平均単価は701円/kgと平年同期(864円/kg)を下回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁 港	水揚量(トン)	延日 数	延統数	平均漁獲量 (kg/統)	平均単価 (円/kg)
新 居	41.9	14	176	238	522
舞 阪	157.5	13	563	280	609
福 田	105.1	13	350	300	622
御前崎	36.2	13	128	283	709
吉 田	70.5	15	350	201	778
静 岡	56.9	13	260	219	1,128
平成23年11月計	468.0		1,827	256	701
平成22年11月計	337.3		1,708	197	700
平成21年11月計	165.1		1,178	140	854

[まき網]

小川港ではマイワシが3.5トンの水揚げで平年同期(16.9トン)の21%であった。沼津港では、マイワシの水揚げはなかった(平年同期44.8トン)。静岡港では、マイワシが0.115トンの水揚げで平年同期(0.122トン)の94%であった。カタクチイワシの水揚げはなかった(平年同期もなし)。伊東港ではマイワシが140.4トンの水揚げで、平年同期(52.0トン)の2.7倍であった。

注)平年同期:過去5か年(2006~2010年)平均

[調査船の動向]

駿 河 丸

11月 7日	11月 10日	地先定線観測	(4日間)
11月 14日	~ 11月 15日	シラス調査	(2日間)
11月 16日	~ 11月 17日	タチウオ生態調査	(2日間)
11月 21日	~ 11月 22日	サバ標識放流調査	(2日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と
関東・東海海況速報を見ることができます。

